

# 教育・保育実習に関する研究(1)

—保育技能について—

The Studies about Practice Teaching  
at Kindergarten and Nursery School (1)  
Skills and Knowledge of Nursery School Teacher and  
Kindergarten Teacher

浅 野 房 雄  
F u s a o A S A N O

岩 瀬 敏 子  
T o s h i k o I W A S E

公 文 征 子  
M a s a k o K U M O N

出 地 章 道  
A k i m i c h i S H I C H I

千 勝 真 知 子  
M a c h i k o C H I K A T S U

廣 瀬 久 子  
H i s a k o H I R O S E

## I. はじめに

本学においては、幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のために、教育実習（幼稚園実習）および保育実習（保育所、施設）を必修科目として学生に課している。実習は、実習先である幼稚園や保育所、施設の実態を体験を通して学び、理解を深め、さらに、そこで生活している園児や入所児童をよく知ることを目的としている。と同時に、学生が授業で学んだ保育に関する知識や理論および保育技能が現場でどう受入れられ、実践されているかを知り、自らも実習生として、参加実習や指導実習（部分、1日）の中で保育の実践をし、技能を確かなものとするのも実習の大事なねらいである。

そこで本論は、学生が指導実習を行う際に取り上げることの多いと思われる活動（内容）について、「ねらい」「環境構成」「援助」の諸事項を含んだ実践例を研究し、まとめることとした。今回は第1報として、「児童文学」「造形的表現」「音楽的表現」について言及する。この小論が学生の実習に活用され、実習がより実りのあるものとなることを期待するものである。

（浅野房雄）

## II. 実習における保育技能の実践例

### 1. 教育実習、保育実習のための児童文学基礎知識

#### (1) 視点とねらい

幼稚園教諭、保育士の資格を得るために、本学の保育料の学生は2年間のあいだに教育実習、保育実習を5回行う。1年次、2年次の幼稚園実習、保育所実習の中に2年次には施設実習が取り組まれている。施設実習は、幼稚園実習や保育所実習とは異なった環境の中で、生活している子ども達に対する実習となる。施設実習の種類は多種になり、各施設で養護される必要性のある児童、または利用者を理解することから実習に入る。

このように、保育科の実習は大別すると幼稚園実習、保育所実習、施設実習になる。これらいずれの実習先においても、絵本の読み聞かせ、紙芝居、素ばなしなどが実施されており、実習生にも実演の場が与えられたりしている。ここで児童文学の視点からいくつかの目標をあげてみる。

- ・子どもとことばの関係を知る
- ・年齢にあった絵本をすすめる。
- ・行事、季節感を本で知り味わう。
- ・園の子どもを囲む読書環境を知る。
- ・子どもの読書体験を知る。
- ・読み聞かせを実施する。

これらのことは実習に臨む前に学校で調べられるもの、授業で学ぶものがある。さらに実習中に観察したり体験したりして学ぶものがある。保育科の学生として、子どもと文学の関係を講義

を通して、専門科目の分野で深く学んでいる。内容としては子どもの本の種類について～赤ちゃん絵本、物語絵本、創作絵本、昔話絵本、紙芝居～等の特徴や性質について理解し、それらを与える対象を考えたりする。また、ことばの発達段階に応じて絵本への反応が変わり、絵本を理解し、楽しみながら育つものが多いことなどを知る。

例えば、ことばが意味ある表現の手段としてあることを、まだ理解できない0才児が絵本を楽しみ、喜び、求める姿がある。絵本の絵を見ながら、読み手の口からでてくることばに耳をすます赤ちゃんがいる。ことばの意味が解り始めたころ、ことばで対話ができるころ、ことばでものを考え始めるころ、それぞれの時期に好んで読まれる本を与え、豊かな感性が育つ手助けをする。これはことばと年齢の発達に応じた読書指導が必要になる。その上で子どもと絵本が深く係わってくると、子どもの心とことばの育ちにもおおきな効果がある。

## (2) 実践の試み

前にも述べたが実習先では殆どすべてと言ってよいほど、「読み聞かせ」「紙芝居」「素ばなし」などが日課の中に組み入れてある。その日の予定になくても、何かの活動の前後に子どもたちの注意をひくために、導入として短いお話や本が利用される事もある。

紙芝居を部分実習として行うとき、次のようなことを考慮する必要がある。

- ・対象となる子どもの年齢、興味、関心。
- ・与えられた時間。
- ・子どもの座る位置。
- ・実施する場所の環境。
- ・実演者の事前練習。

紙芝居や絵本を考えるときは、子ども達の年齢、興味、関心、発達の状況を考えてテーマを選ぶのがよい。与えられている時間内で、余裕をもって終わる事ができるか。全ての子どもたちは紙芝居が見える所に座っているか。また出入り口を背にして座らせるとよい。人の出入りで集中を妨げられないためである。部屋の光の当たり具合や、紙芝居の舞台をセットする位置は効果的な場所か。実演者は繰り返し練習し、声の大きさ、間の取り方、絵の抜き方などを自分以外のだれかに見てもらおうとよい。そして、演技者と聞き手が紙芝居を通して楽しい思いをいただければ成功といえるだろう。

施設実習における実践には、保育所や幼稚園とは異なった工夫や材料選びが要される。知的な遅れがあり、言語のコミュニケーションが取れず、体も不自由な障害児に、どのようにしたら読書の楽しみを与えられるだろうか。重い障害児の運動能力や言語能力は、健常な乳児初期の内容と同様に考え、一人一人の状況を把握して計画をたてるとよい。

たとえば、ほとんどが寝たきりの状態で、視線の動きや微妙な表情から対象児の気持ち把握し

なければならないとき、保育者側からの働きかけに重点をおく。ペープサート、エプロンシアター、絵本読み、指遊びなどである。重い障害児は反応が希薄で、注目しているのか、楽しいのか判断できず、迷うことがあるが、働きかけを大きくし、楽しい気持ちを盛り上げてみる。いずれにしても、どのような障害をもった子どもでも、子どもと親しむには、声を掛けながら近づき、子どもの気持ちを代わりに言語化してあげることが大事だ。

教育実習、保育実習における児童文学について述べたが、読み聞かせのその他を加える。

- ・語り（ストーリーテリング、おはなし、素話）
- ・パネルシアター
- ・指人形（軍手人形を使った寸劇など）
- ・小道具を使ったお話（折紙、新聞紙、カード）

## 参考文献

- |                          |            |
|--------------------------|------------|
| 読み聞かせわくわくハンドブック          | 代田知子著 一声社  |
| 幼稚園・保育所実習の指導計画案はこうして立てよう | 阿部明子著 萌文書林 |
| 教育・保育実習                  | 秋山和雄著 東京書籍 |
| 施設実習マニュアル                | 小舘静枝著 萌文書林 |

(廣瀬久子)

## 2. 教育実習、保育実習のための幼児造形教育基礎知識

### (1) 視点とねらい

実習は普通はじめに観察実習、部分実習、責任（全日）実習、というように段階的に行われる。本学でも1年次に幼稚園、保育所ともに観察実習、二年次に部分、責任実習を行うことにカリキュラムが組まれておりこれは自然な実習の流れといえる。1年次の観察実習において造形教育の視点からは次のような点を目標として挙げたい。

- ・0歳児から5歳児までの造形的発達の様子を確かめる。
- ・同年齢の子供の個人差を観察する。
- ・造形的な「環境」を観察しその目的、内容を理解する。
- ・保育士の指導技術（設定、準備、導入、展開、まとめ、言葉かけなど）を観察する。

もちろん実習園の環境構成（壁面構成）を観察したり、各園の造形教育への認識や取り組み方も同時に学びたいものだが、特に上記の4点は観察実習を通して学ぶべき大切な点だと思える。

実習は学校で教わる理論と園での実践とを繋ぐ場である、とよく云われる。たとえば、「2歳児には描画題材として時期的に円弧のなぐり描き（スクリブル）をする時期だから描画の題材としては、『やきそば』や『スパゲティ』などが向いてます。クレヨンで楽しく自由にのびのびと描か

せてみましょう。」と、教わっても、実際部分実習で取り上げてみると導入から上手いかない。だいいちクレヨンをうまく持てない子もいれば、ムラサキ色でスパゲティを描き出す子もいる。どう声をかけようか言葉に詰まっていると、一方ではまったく絵を描こうともしない子がいる、といった事になる。ところが同じ教材でも園の担当の先生にかかると画用紙ではなく紙皿に描かせていたりする。なるほど皿のうえに描いたら実感が出るなと思って見ていると、こんどはピンク色のスパゲティを描いてる子に「あら、おいしそう。まさる君のはタラコスパゲティかしら、先生もたべたいなあ」。絵を描かない子とはハンバーグの話なんかを始めていたりして描かないことをさして気にするそぶりをみせてない。その様子からその子の好きな食べ物の話しなどをしながら興味がでるまでまっているようだ、などと思う。

そうしたことをじっと観察するにつれ、実習生はやがておぼろげにも大学で教わった造形教育の本来の目標や内容を思い起こす事ができ、指導の先生の工夫や手立てを読み取ることが出来るようになる。実習が終わったら学校でスパゲティをムラサキ色に描く子にはどんな意味があるのか調べてみようと考えたりもする。観察実習の大きな目的の一つはここにある。

## (2) 「実践」と考え方

2年次の部分、責任実習ではいよいよ実践ということになる。実践は導入から始まる。導入は子供の創作意欲を引き出すための大切な手順である。たとえば「紙トンボ」を子どもに最初に見せておいてから「さあ、これを作りましょう。」という導入と、はじめは背中に隠し持っていて「先生ね、いいものもってるよ。」と切り出すのでは子どもの反応は違ってくる。「なあに、なあに、先生みせて」と子どもが興味をみせた瞬間から、すでに子どもの心のなかでは想像と創造の世界が始まっているのである。子どもの興味をいかに引き起こすかというのが導入である。ここから展開が始まりさらに変化し発展していく。そのテンションは「導入」次第で決まるといってもけして大げさではない。

また実習で「製作」を取り上げるときのアドバイスとして阿部恵と鈴木みゆきは次の点をあげている。

- 1 子どもの発達や生活経験を配慮して、あらかじめ用意しておくことや、保育者(実習生)が手伝うところなどを考えながら指導案を立てること。
- 2 製作の材料は必ずクラスの人数より多めに用意しておくこと。思わぬアクシデントに見舞われることがある。
- 3 説明の手順を具体的にイメージしておく。一度伝えてから訂正をすると、子どもたちは混乱してしまう。
- 4 製作は早くできる子どもと遅い子どもが必ずいる。時間的に余裕をもって進め、作ったもので遊べる時間も十分確保すること。

- 5 最初に作る物の見本を見せ、遊び方まで知らせたほうが、製作の意欲がわいてくる。
- 6 用具や製作過程、あそびの中で危険はないか、どんな事故が予測されるかなどを考え、そうならないためにも対策を講じておくこと。

さらにこれに加えて次の点を注意事項としてあげておく。

- 技術書を鵜呑みにせず、試作品を10個以上作り実験してみることに。(紙トンボなどは色々な本で紹介されているが、台を利用しないと子どもでは落下距離が短いのでうまくトンボがまわらない。)
- 本で見たときには素晴らしいアイデアでも、作ってみると実際にはつまらないものも多い。
- 本には「何歳児向け」と明記してあっても実際にはその年齢では全部は作れないことが多い。
- 子どもは基本的に「動くもの」「変わる(変化する)もの」、また特に男子は「飛ぶおもちゃ」が好きである。
- 子どもが保育者の求めに技術的に応じられない場合を想定して対応策や変化を幾通りも考えておくこと。など

いずれにしても実習に望む際には十分な準備、計画、園側との打ち合わせが必要となるのは言うまでもない。

#### 引用文献

阿部恵 鈴木みゆき 教育・保育実習安心ガイド 大阪 ひかりのくに 2002 P.36

(出地章道)

### 3. 幼稚園総合実習における音楽(歌唱)指導法

#### (1) はじめに

見学・観察・参加実習を経た後に行う指導実習においては、部分実習、全日(指導)実習が行われる。これらの実習はいずれも、実習園の指導担当教師との綿密な計画により、指導案を作成して行うものである。ここでは、実習生がこの全日(指導)実習(以下指導実習とする)を行う際、1日の主活動の中に、5領域の《表現》より音楽〔歌唱〕指導を導入する場合の、必要不可欠となる理論と指導方法について述べる。

今迄の実習生の間では指導実習の主活動に音楽を取り入れる学生は大変希で、大半が造形〔製作〕を導入している。その理由として、音楽が「音楽」の範囲以外の、保育中の様々な場面で活用される事が多いことがあげられる。例えば、朝・お弁当・お帰りの挨拶、子ども達を静かにさせる時、保育者の方に注意を集中させる時、絵を描いたり絵本を読んだりする時の導入として

等々、それ自体が音楽本来の目的ではなく、1日の保育の流れをスムーズにするために多くの音楽が利用されている。また、音楽を主活動にした場合、1つの作品を創り上げるのに数日の指導を必要とするため、1日のみの指導実習では導入するのが困難な事と感じていることも理由の1つと考えられる。

しかし、幼児教育の中で音楽の占める役割は非常に大きい。幼児期の音楽、とりわけ歌うことは特に重要である。なぜなら、幼児期は音楽が身体と結びついてリズムと一体化（同期反応）するのが一番盛んな時である。この時期に多くの音楽に親しませる事により、身体共にバランスのとれた子どもに育てる事ができる。この観点から、実習生には是非音楽を導入し、子ども達と共に、その楽しさを共感して実践して欲しいと願っている。

## (2) 指導実習実施上の前提

幼稚園における教育目標や1日の保育の流れは、園によって様々である。いずれの園も登園から降園までの時間の流れの中に、幼稚園教育方針に沿った保育展開が行われている。園児達はその流れに沿って、自分のリズムを作って行くのであり、そのリズムは1週間の流れをベースに生活を組んでいる様に思われる。このリズムのある生活の中に、保育者は新鮮な変化を与えながら、子どもの生理的な要求を十分に満たせるよう、様々な保育を展開して行くのである。実習生はその事を理解した上で、配属された園の指導形態、編成形態、毎日の子どもの生活の流れを考慮して指導計画を作成し、指導実習を行うことが前提となる。

## (3) 主活動に音楽〔歌唱〕指導導入時の留意点

主活動として歌唱指導を導入する場合には、発声の指導、音程の指導、歌のリズムの指導、ことばの意味を理解して情景豊かに歌う指導が含まねばならない。しかし、実習中の短い期間では全てを指導することは不可能である。従って実習生は以下に述べるような、幼児の音楽的特徴や音楽的機能の発達過程を理解した上で、幼児一人ひとりが楽しく親しめることを最優先にして指導する事が大切である。

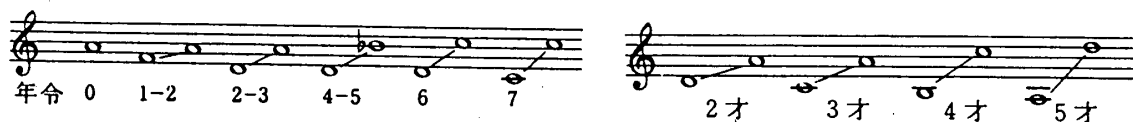
### ① 幼児期の音楽的特徴

- ・ 全ての子どもは音楽的才能を内面に秘めている。
- ・ 幼児期は感受性が強く感覚的に行動する時期である。
- ・ 音楽やリズムの発達が一番著しい時である。
- ・ 幼児期の音楽は体と結びつき、リズムと一体化（同期反応）が一番盛んな時期である。

## ② 音声機能の発達過程

〔乳幼児の声域〕

〔幼児の歌い得た音高〕



- ・上記声域は一般的声域であって個人差により低い声域を持つ子、高い声域を持つ子、さらに広い声域を持つ子もいる。
- ・音声機能の発達は3才、4才、5才と年齢が進むにつれて声域が広がってゆく。
- ・声域の広がり高音よりも低音の方が先に現れてくる。

指導にあたる際は、この音声機能発達に沿って、成長に合った声域の曲を選択し、決して無理をさせてはいけない。しかし、時には柔軟な選曲をし、一人一人の声域の機能が十分に得られるように考慮して欲しいと願っている。

## ③ 聴覚器・リズムの発達過程

聴覚器は人間の感覚器の中で最も早期に完成する器官で、基本的形態の完成は母親の胎内（妊娠20週目）といわれ、5才ころにはほぼ成人と同じ域に達する。聴覚器の発達に伴い音楽に対する反応は0才時より既にあり、特に音楽を構成する3要素（リズム、メロディー、ハーモニー）の中で、どの要素よりも早く現れるといわれているリズムにより、音楽に合わせて手足を動かしたり身体を揺らす動作は乳幼児期から表れる。そしてリズムに合わせて手を叩いたり首を振る反応から、運動機能の発達につれ5才頃にはスキップ等複雑な全身運動で「同期反応」できるようになって行く。

## (4) 歌唱指導上のねらい

音楽の基本は歌である。歌うことにより知能や社会性、情操を育てることができる。幼児期の音楽教育、特に歌唱教育は最も大切であるとされている。歌うことによりもたらす幼児教育の目的や効果を充分考慮した上で、以下の事項に留意して指導計画を立てる事が大切である。

- ・子ども一人ひとりが楽しく豊かな気持ちで参加できる。
- ・歌詞の内容を通して、季節感、イメージの把握など、様々な方法で興味を大きく持たせ、更に楽しむ事ができる。
- ・リズムに乗って体全体で歌う喜びを味わえる。
- ・のびのびと歌う事、表現することを楽しみ、先生や友達と一緒に歌うことの喜びを得て、さらには自発的に一人でも歌えるようになる。

(5) 歌唱指導の展開手順

- ① 曲の選定は日常生活の中から、親しみやすい歌で、幼児の心の中に喜びと夢が育つようなものを選ぶ。例えば「ふしぎなポケット」「10人のインディアン」「どんぐりころころ」「アイアイ」等。

- ② 幼児の歌の習得は体全体でリズムと一体化して理解されると言われている。従って最初から少しずつ記憶しその断片をつなぎ合わせて行くのではなく、全体を繰り返しながら聴き、メロディーの大まかな輪郭を捉えることにより、音楽と身体が結び付き一体化するところより入って行く事。

従って、初めは指導者（実習生）が全曲を通して何回も範唱し、幼児は模倣の聴唱法で歌わせる。

- ③ 指導者（実習生）は無理のない素直な声で、音程やリズムに留意し、範唱することにつとめる。

幼児は指導者の範唱を模唱している内に、次第に自然に無理のない発生をするようになってゆく。

- ④ 幼児期は興に載れば載るほど夢中になり怒鳴り声になりがちである。幼児期の柔らかい声帯は非常に痛みやすく、その影響は将来にまで及ぼす事になる。また、怒鳴り声は音程もリズムも悪くなり音楽表現もうまうまいなくなる。従って、怒鳴り声は怒った時の声で、楽しく歌う時の声ではない事を理解させ、指導者（実習生）が範唱して聴かせる。

- ⑤ 歌の内容を絵やお話により、イメージを拡げ、音楽が更に豊かな楽しいものになるよう指導する。

- ⑥ 曲全体を歌えるようになったら、年齢により無理の無い範囲で、音に合わせて、音程を外さないように等、部分指導を入れて行く。

- ⑦ 立って歌う時の姿勢は、足を肩幅に開き、手は後ろにし、喉、首、肩の緊張をリラックスさせるようにする。立って歌う事により友達と気持ちを合わせて楽しく歌うという意識を育てることもつながる。

- ⑧ 幼児の年齢や選曲によっては、部分的に2重唱にしハーモニーの美しさを味わい友達の旋律に耳を傾ける事も経験させる。

- ⑨ 楽器を用いてリズム打ちをしながら歌う。

- ⑩ 曲により体を動かし自由に表現させる。

【指導のポイント】

- ・歌い始め、歌い終わりを大切にする。
- ・曲想を十分に考え楽譜通り丁寧に範唱し、模唱させる。

- ・同じ旋律や言葉の反復は強弱の変化（エコー反応）を付ける。〔年長児になると音楽の表現力も備わってくる。〕

#### (6) 伴奏の弾き方

- ① はじめは、メロディーを正しく弾きながらの簡易伴奏で、指導者（実習生）の美しい範唱により模唱させ、ある程度歌えるようになったら少しずつ自然に伴奏を付け加えて完成して行く。
- ② 伴奏は原曲を使用するか、あるいは可能な限り原曲を生かして編曲した簡易伴奏を使用する事を望む。伴奏はメロディーと一体となって一つの音楽を形作っているものであるから、難しくとも十分な練習をして、最終的には完成された美しい音楽として幼児に伝えたい。  
また、以下の指導技術を身に付ける努力も大切な事である。

##### 〈指導技術の基本〉

- ・全体を把握するために、子どもの方を見ながら弾けること。
- ・歌詞、リズム、強弱それぞれの指導にあたって、楽譜内の音符や諸記号に忠実に弾く。
- ・必要に応じて途中からでも弾けること。
- ・子どもの歌っている様子を見ながら途中止まらずに、「身振り手振り」や「話か掛け」が出来ること。
- ・フレーズの切れ目などに「合いの手」を入れて、歌いやすくする。
- ・前奏・間奏・歌い出しのきっかけが、はっきり子どもに解るようにする。
- ・歌詞の内容を熟知し、歌うことばかりでなく、伴奏でも充分表現できるようにすること。

(7) 具体的事例

① 教材例1「おもちゃのチャチャチャ」4～5才児

<ねらい>

チャチャチャのリズムを身体で感じとり曲の面白さ，楽しさを味わう。

①⑦ おもちゃのチャチャチャ

野坂昭如 作詩  
吉岡治 補作  
越部信義 作曲  
伊東慶樹 編曲

Cha cha cha やや早めに

おもちゃのチャチャチャ おもちゃのチャチャチャ チャチャチャおもちゃの チャチャチャ

1. そらにキラキラ おほしさま みんなすやすや ねむるころ  
2. なまりのへいたい トテチテタ ラッパならして こんばんは  
3. ぎょうはおもちゃのおまつりだ みんなたのしく うたいましょ  
4. そらにさよなら おほしさま まどにおひさま こんにちは

おもちゃははこを とびだして おどるおもちゃの チャチャチャ  
フランスにんぎょう すてきでしょ はなのドレスで チャチャチャ  
こひつじメエエ こねこはニャー こぶたブースカ チャチャチャ  
おも はかえる おもちゃばこ そしてねむるよ チャチャチャ

おもちゃのチャチャチャ おもちゃのチャチャチャ チャチャチャおもちゃの チャチャチャ

## 〈指導法〉

### 〔歌唱〕

- ・ 言葉をはっきり発音し、明るくリズムカルに歌う。
- ・ 言葉表現の面白さ 〈おもちゃの兵隊トテチテタ〉〈ブースカ・メエメエ・ニヤー〉等、それぞれの人形や動物になりきって歯切れ良く歌う。
- ・ 余裕がある場合は1, 3, 4段の4小節目のチャチャチャの部分に2重唱にし, “指導者と園児”又は“園児同士”でハーモニーの楽しさを味わう。



### 〔楽器〕

- ・ おもちゃのチャチャチャの部分と2, 3段の2小節の部分にチャチャチャのリズムを加えたり楽器〈カスタネット, シンバル等〉を取り入れリズム打ちを楽しみ身体全体で表現してみる。



(楽器使用の場合, 一人一人が満足できるよう楽器の種類, 数等, 十分に注意を払わなければならない)

### 〔動き〕

- ・ 動物の鳴き声などで自由に表現させてみる。

② 教材例2「おつかいありさん」4～5才児

〈ねらい〉

元気よくリズムカルに歌う。小さい生きものを観察する心を育てる。

⑭ おつかいありさん

**Allegretto** 関根 栄一 作詩  
園 伊玖磨 作曲

*mp* *mf*

1. あ ん ま り い そ い で  
2. あ い た た ご め ん よ

こ っ つ ん こ      あ り さん と あ り さん と こ っ つ ん  
そ の ひ ょ う し      わ す れ た わ す れ た お つ か い

こ      あ つ ち い て ち ゃ ん ち ゃ ん      こ ち き て ち ゃ ん

### 〈指導法〉

#### 〔歌唱〕

- ・スキップのリズムをはっきりと弾んで歌う。



- ・事前に園庭などで、蟻の巣や蟻の行列を観察したり蟻のお面を作ったりして、子ども自身が蟻のイメージを持ち楽しく歌えるよう工夫する。
- ・「あいたた、ちょんちょん、こつつんこ」等は楽しく可愛らしく表現する。

#### 〔楽器〕

- ・カスタネットやタンブリン、5歳児になると木琴などを奏することも可能になってくる。

#### 〔動き〕

- ・せっかちな蟻が「あっち行ってちょんちょん、こっちきてちょん」と動く様を前後左右に飛んだりしてみる。

### (8) おわりに

保育を進めるのは実習生であるが、その主体となるのは子どもである。いつも子どもの目線に立ち、一人ひとりの子どもにとって、良いもの、発達を促すもの、興味をそそるものを考えて指導計画の作成に当たって欲しい。

音楽を主活動として導入する場合、主活動外の音楽、つまり保育のスムーズな流れのために用いる音楽と区別をするために、指導計画の段階ではっきりとねらいや指導の方法を押さえて、区別できるようにしなければならない。

音楽を指導実習に取り入れようとする場合には、実習開始後の準備では不充分である。できれば、事前訪問時に指導教師にその希望の旨を申し出て、準備に取りかかるようにすると良い。そして歌や伴奏等十分に練習を積んで、イメージ豊かに、かつ十分に弾き語りができるようにしておかなければならない。さらに、指導方法について、多面的に臨機応変の対応ができるよう事前の努力と心掛けが大切である。

音楽的発達は、あくまでも子ども自身の内発的意欲の現れた時に、多くの歌や楽器に出会う事により得られるものであるから、指導者（実習生）は子ども達が心と体が一体となって音楽を楽しむような展開を考慮し、意欲的に参加できるような工夫が大切である。

幼児の音楽的発達は家庭環境、地域環境によっても大きく左右される。保育者（実習生）は技術面にとらわれることなく、子ども一人一人が音楽で充分遊び楽しむことができるような環境を

与えていけるようにすることが大切である。

音楽を主活動として導入する場合には、いずれの指導においても指導過程の一部である事を認識し、流れに沿った他の領域と相いまった総合的な指導になる様に心掛ける事は言うまでもない。

#### 参考文献

これからの「音楽リズム」学術図書出版社

〈幼児教育法〉音楽・音楽リズム p.12 三晃書房

(公文征子)

### 4. 教育実習、保育実習における遊びへの導入—音楽的表現の観点から

#### (1) はじめに

保育実習は、保育園のもつ目的・機能・役割・実態を実際の経験をとおして理解し、体験的に学習することである。学生にとって大変意義のあることで、実習を体験するごとに保育士としての自覚を持ち、次回への課題を見いだすのである。

一年次の保育実習の概要は「観察・参加実習を体験しながら、保育士の助手として、手伝いや部分的な指導の体験をする」ということで、部分実習。二年次では「保育士の職務・幼児の活動を理解し、保育の実践としての保育技術を習得する」ことで、指導実習（部分・一日）を体験するわけである。保育所はいうまでもなく食事、排泄、午睡、おやつ等の「養護」に関することと、絵本、紙芝居、うた、ゲーム等の技術的内容が含まれるので、部分実習においても養護に関することと、技術的内容に関すること等が、当然取り上げられる。養護に関することは、参加実習での日々の積み重ねにおいて成し得るであろう。実習生が部分実習について不安をいだくのは、遊ばせる技術的内容のようである。実習園によっては、幼児がはやく実習生に親しみ、遊べるようにということで事前指導訪問の際に、手遊び、絵本や紙芝居の読みきかせ等が要求される。そこで、遊ばせる技術が少しでも役立つよう、延長保育における遊ばせ方、部分実習の内容など、音楽的な立場から実践法を考察してみることにする。

#### (2) 乳幼児の音楽的発達

音楽に関する部分実習にどのような内容のものを導入するか、また、延長保育での遊びの技術的内容については、乳幼児の発達段階を音楽的側面から考察することが大切である。乳幼児に見られる一般的な音楽行動、その発達所見について次のように述べられている。

- 0～1歳児      胎児の時に聴器官、聴神経が完成され母親の声をきいているといわれている。  
                 誕生後、人の声・他の音の区別がわかるようになり、リズムを使い分けて泣き、

4ヶ月頃には喃語期にはいり、6ヶ月頃には音楽に対して聞き入ったり、リズムカルに反応する。8ヶ月頃には音の出るものを喜び、全身で反応する。1歳頃には、つかまり立ちをしながらリズムカルに身体を動かす。

- 1～2歳児 音楽を聞いて手を叩いたり、足をトントン動かし踊るような格好をする。歌のふしを模倣する（リズムカルな言葉・繰り返しの言葉）。
- 2歳児 テレビのコマーシャルソングなど、そのリズムに合わせて歌ったり、踊ったりしようとする仕草が見られる。旋律的な音を聴く力が出てくる。
- 3歳児 歌に興味をもち、たくさんの歌を覚える。音程は不安定であるが、歌全体を再生できる。聴覚の発達により音色への興味が増し、楽器でいろいろな音を出して楽しむ。リズムの打ち方も安定し、音楽に合わせてようと意図してできる。
- 4歳児 音に対してリズムカルに反応できるようになる。スキップも上手くなるが、音楽に合わせてのスキップは無理。歌詞の意味が分かってくると同時に、音域も広がる。歌全体を正確に歌うことができる子どもも出てくる。リズム楽器の好みははっきりしてきて、打ちながら歩いたり踊ったり活動が見られる。
- 5歳児 スキップ・ホップ・ギャロップなどが音楽に合わせてできる。奏法技能（楽器の持ち方、打ち方）への学習適齢期である。リズム・音程ともに正確に歌える子どもが多くなる。歌詞の内容を理解しながら曲想に合わせて表現できる。合奏遊びを好む。楽器以外の音の出るものを好んで取り入れる。

このように乳幼児期に見られる一般的音楽行動、その発達所見によると、音・楽器等に関しては0歳から、歌うことに関しては生後6ヶ月頃から、リズムに関しては2歳6ヶ月頃から芽生え、自己表現の意欲が旺盛になることが理解できる。

### (3) 音楽遊び

保育実習における音楽遊びは、絵本・紙芝居の前に、部分実習、延長保育での時間外自由遊びなど、いろいろな場面で導入できる。その内容を3項目に分類し実践法について述べる。

#### a) 歌遊び

1歳頃から歌のひとふしを模倣したり、リズムカルな言葉や繰り返しの言葉を模倣し、歌のように楽しむが、曲想やリズムにのって歌えるのは4歳頃からである。身体の動きを伴って歌うことで楽しさも増加し、気分をはぐすのに効果的である。歌詞の内容や情景の理解のために、イメージを豊かにするために、お話や絵、ペープサート等を取り入れるくふうをすると良い。手遊び歌は、集中力の育成に効果的である。絵本や紙芝居の前に最適である。わらべうたは、

リズムと歌に合わせてこどもの遊びを引き出し、遊びを通して成長に役立つ体験ができる。

#### b) 楽器遊び

楽器を弾くことは4歳頃からであるが、音を楽しむことは0歳から芽生えている。音を楽しむ楽器としては、音の出るおもちゃ、音の出る身のまわりのもの、手拍子などで、音楽にあわせて音を楽しむことができる。3歳頃には手作り楽器を作って、歌とのアンサンブル、リズム打ちなどで遊ぶことができる。

##### 【参考曲】 畑のポルカ

おもちゃのチャチャチャ

ありさんのおはなし

#### c) リズム遊び

手拍子等を入れたリズム遊びは、2歳6ヶ月頃から導入できる。4歳頃からは、手拍子、足拍子、膝打ち、手合わせなどの身体動作を含めたリズム遊びができるようになり、大変楽しく活動できる。

##### 【参考曲】 ながぐつマーチ

ねこふんじゃった

アイアイ

#### (4) おわりに

領域「表現」は「豊かな感性を育て感じたことや考えたことを表現する意欲を養い、創造性を豊かにする観点から示したものである」と述べられている。音楽的な内容としては「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう」と記されている。さらに技能への考え方として「幼児が自分の気持ちや考えを素朴に表現することを大切にし、生活と遊離した特定の技術を身に付けるための偏った指導を行うことのないようにすること」の留意事項があげられている。音楽表現活動を実践する場合は、発達段階も含めて、これらの点に細心の注意を払わなければならない。幼児の音楽活動は、遊びの中に融合されたものでなければならないのである。

乳幼児は、音・音楽に対して身体をゆすったりして、自然に全身でリズムを感じ表現している。このように全身で楽しむ活動こそが、感性を育て表現する意欲や態度に発展することに繋がるのではないだろうか。

子どもと楽しく遊べる歌遊び（手遊び、わらべうた）、楽器遊び、リズム遊びなどをおして、楽しく子どもとの関わりをもてる保育実習であって欲しいと願う。

## 参考文献

表現の指導音楽リズム 飯田秀一編 同文書院 p. 11～16

保育所保育指針「表現」

(千勝真知子)

## 5. 教育実習、保育実習における打楽器の奏法

保育科の音楽に関わる一人として、乳幼児期の音楽とは一体何だろうと考えてみた。

生命が母の胎内に宿ったその瞬間から母親から心臓の鼓動が胎児に伝わり、いついかなる時も途絶えることなく、規則正しくリズムを刻んでいる。また呼吸も同様に、一分間に幾つというリズムを刻んでいる。

約十ヶ月という間、胎児はこのリズムを感じ、やがてこの世に誕生したその瞬間からは、体内で感じていたリズムとは別な、自分の心臓の鼓動を刻むことになる。呼吸のリズムも同様である。

この様に、胎児・新生児・乳児・幼児とその時々、本人が意識もせずとも本能的なリズムを持っていると言えよう。音楽とは、特にリズムというものは、人間の最も自然な営みから生まれるものであり、無意識に備わっているものだと思う。

以上の事から乳幼児期の音楽とは、まずリズムが最初にくるのではないかと考えた。そこで、保育科の学生が入学してから行う最初の実習である幼稚園実習を考慮し、年少・年中・年長という各年齢に合った楽器は何が最適であるかと考えると、前に述べたような理由から打楽器が良いのではないかとと思われる。その中でも、カスタネット・トライアングル・タンブリン・鈴・小太鼓・大太鼓・シンバル等は多くの幼稚園で使われている。そこで、これらの打楽器の基本的な扱い方を身につけ、確かなものとして実習に望める様、参考にして頂きたい。

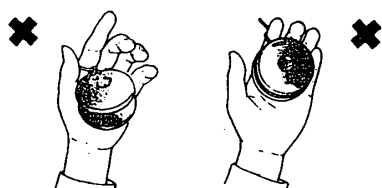
### □カスタネット

#### ① 持ち方



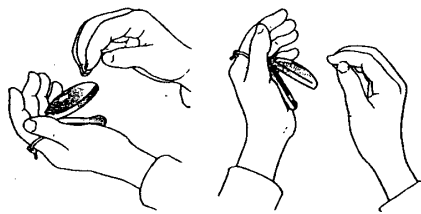
左手の人差し指か中指にゴムの輪を通し、カスタネットを手のひらで軽く包み込むようにして持ちます。

注：結び目のある方を表にしたり、ゴムの輪を指の付け根まで入れずに指のほんの先のほうで止めていてはいけません。

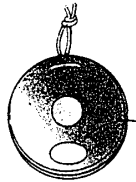


#### ② 打ち方

手のひらを上向きにしてカスタネットを安定させ、右手の指先を使って打ちます。



手のひらを立てて、ちょうど拍手をするときのような形で打つこともあります。



カスタネットの表面の中央に丸いくぼみが付いた楽器もありますが、これは打つためについているものではありません。反応よく打つための位置は、このくぼみと外側の肩との間近が適当です。



注：こんな打ち方もあります!!

親指に輪を通し、カスタネットを握りこむようにして安定させ、親指以外の指で打ちます。

身体表現などをしながら打つときにはこの方法がよく使われますが、右手で打つときに比べ、多少の慣れが必要です。



### ③ 種類

カスタネットには、大別するとスパニッシュカスタネットと柄付きカスタネットの二種類があります。一般に教室で使われているカスタネットには、スパニッシュカスタネットが原型になっています。



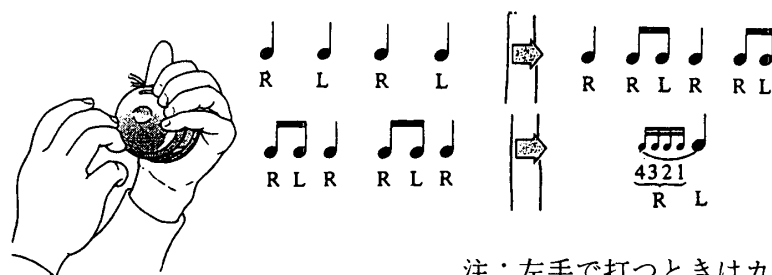
最近では木台にカスタネットの一方の木片を並べて取り付け付けたマシンカスタネットと呼ばれているものもあり、コンサート用として使われています。



### ④ 奏法の具体例

#### イ) 右手で打つ

左手に持ったカスタネットを、右手の指を変えながら鍵盤を弾く様なつもりで打ちます。小太鼓のような軽快なリズム表現が出来ます。



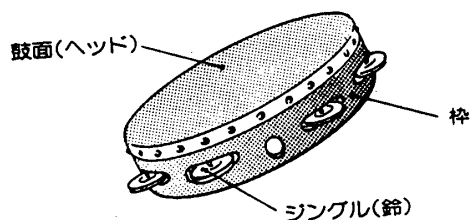
## ロ) 両手で打つ

左手の親指に輪を通し、軽く握るように構えたカステネットを、右手と左手を使って打ちます。

注：左手で打つときはカステネットを握るようなつもりで打ちます。

## □ タンブリン

### 各部の名称



### ① 持ち方

丸い穴のあいている枠の部分を持つ位置です。親指を鼓面の縁に置き、残りの指で枠を握りこむようにしてしっかりと支えます。

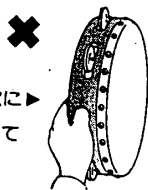
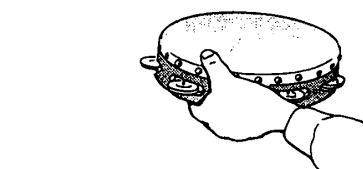
注：枠の丸い穴に親指を入れて持ったり、枠の丸い穴に人差し指を入れて持ってはいけない。

楽器を安定して支えることが出来ないだけでなく、指の怪我につながる危険な持ち方です。

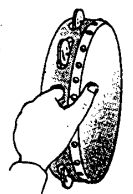
こんな持ち方もあります!!

親指を鼓面の縁に置き、残りの指で枠を握りこんだときに、中指の先を内側からこの穴にかけて持ちます。

注：小さな手の子供や、枠が深い楽器の時には有効な持ち方です。

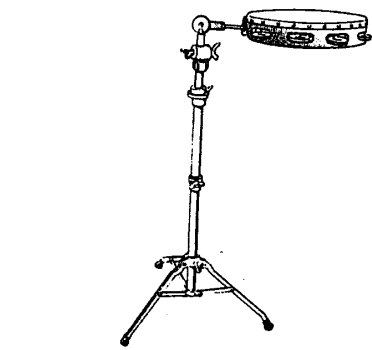


×  
枠の丸い穴に  
親指を入れて  
持つ。



×  
◀ 枠の丸い穴に  
人差し指を入  
れて持つ。

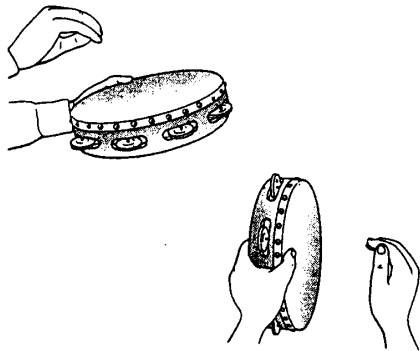




手を使わないこんな方法もあります!!

シンバルなどのスタンドに、枠の丸い穴を利用して固定します。

注：他の楽器も受け持ちながら打つときや、両手を使って打つときなどに便利な方法です。



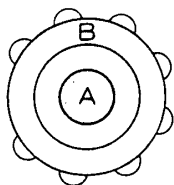
## ② 打ち方

タンブリンを打つための楽器の構え方は、どんな音を出したいかによって変わってきます。右手の指は、そろえて打つのが基本です。

楽器をほぼ水平に構えて打つと、ジングルの余韻は殆どなくなります。

楽器を垂直に構えて打つと、ジングルの響きに余韻が残ります。

注：はっきりしたリズムを刻みたい時には、ほぼ水平に構えて打つのが適しています。反対に細かいリズムが連続したトレモロ奏などの場合には、垂直に構えて打つのが適しています。

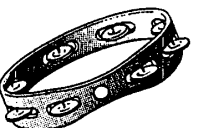
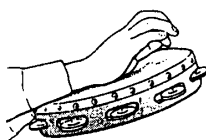
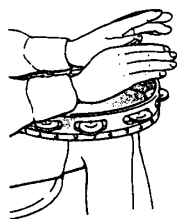


打つ場所によって音が変わります!!

鼓面の中央のAの部分で打つと、皮の振動が効率良く得られますので、大きな音を出すことができます。また、ほぼ枠に近いBの部分で打つと、太鼓の音は小さくなります。ジングルの音を強調したいときは、このBの部分で打ちます。

タンブリンは、太鼓と鈴の両方の音を兼ね備えた楽器です。

打つ位置で微妙に変化する音色を確かめて表現にいかしましょう。



モンキータンブリン

こんな打ち方もあります!!

椅子に座り、ひざの上に鼓面を下にしたタンブリンを置き、両腕で枠をおさえながら手首のスナップを効かせて打ちます。

両手を使って打つことができますので細かいリズムを表現するのに適しています。

右手首で鼓面を押え、鍵盤を弾く要領で楽器の枠に近いところを指先で打ちます。

小さな音で細かいリズムを表現するのにてきしています。

### ③ 種類

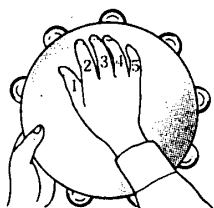
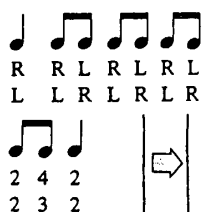
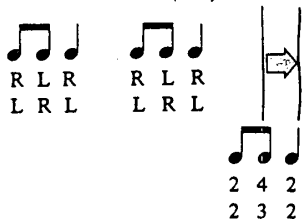
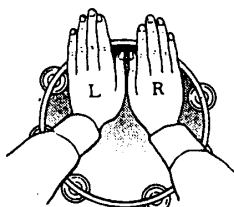
タンブリンは、もともとジングルを鳴らすことを中心にした楽器です。一般的には枠に革が張ってありますが、モンキータンブリンのように枠とジングルだけの構造のものもあります。

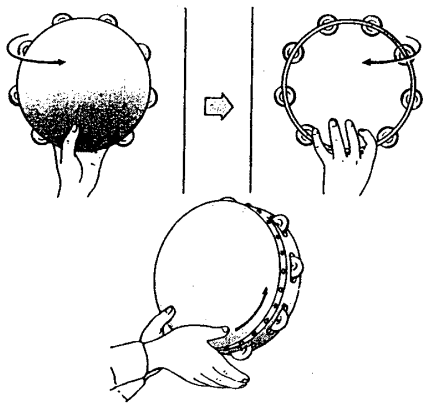
タンブリンは、8～10インチ（20～25センチ）くらいのもので、ジングルが7、8組付いているものが一般的でよく使われています。タンブリンはジングルの音が大切です。軽い透明感のある響きのするものが良いでしょう。

### ④ 奏法の具体例

両腕で枠を押えながら、手首のスナップを効かせて枠を交互に打ちます。

右手首で鼓面を押え、一本一本の指を使って打ちます。使用する指は、特に決まりはありませんが、主に使いやすい人差し指・中指・薬指を使うのが一般的です。





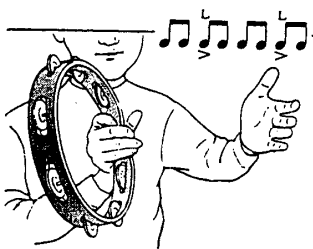
## トレモロ奏

シェイクロールと呼ばれるトレモロ奏

左手の親指・人差し指・小指の三点で楽器を支えるようにして垂直に持ち、手首をねじるようにして振ります。

フィンガーロールと呼ばれるトレモロ奏

左手で垂直に持った楽器の鼓面の縁に沿って、右手の親指の腹で擦り、その振動でジングルを鳴らします。

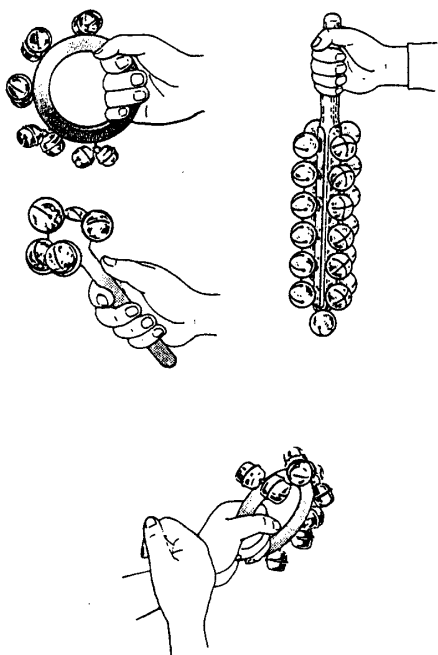


## モンキータンブリン

モンキータンブリンには皮が張っていないので、ジンゲルの音だけが必要なとき等に適しています。杵をしっかりと握りこむようにして持ちます。モンキータンブリンは、8ビート等のロックのリズム等によく使われます。

力を抜いた右手首を支点にして楽器を左右に振ります。アクセントを入れる拍のときは、左手に杵を当てます。この奏法は、モンキータンブリンに限った物でなく、一般の鼓面のあるタンブリンでも同じです。

## □ 鈴



### ① 持ち方

鈴は、形や大きさがいろいろあり、持ち方も求める音によって一様ではありません。鈴のついた輪を、軽く握りこむようにして持ちます。

鈴のついた部分を下に向け、つるすように柄を持ちます。

鈴のついた部分を上に向け、大太鼓の撥と同じように柄を持ちます。

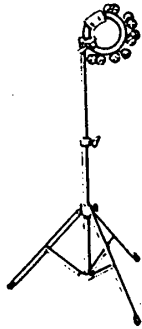
### ② 打ち方

手首のスナップを使って振ります。特に歯切れの良い音を出したいときには、左手に楽器を持ち、手首の辺りを右手で軽く叩きます。

この打ち方は、どんな形の鈴の場合でも基本的にはおな

じです。鈴はわずかな振動にも反応して音が出ますから、右手で打つ左手の位置を工夫する事で、強弱の変化をつけることも出来ます。

例えば、だんだん大きくなる音を表現する為に、左手の肩の辺りから段々に手首の方へ打つ位置を移動してくるといった工夫です。



こんな打ち方もあります!!

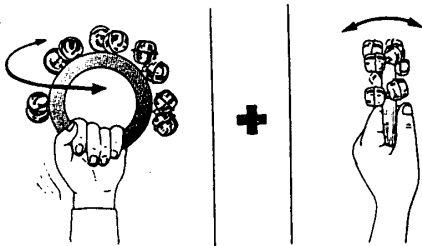
譜面台の頭部を外し、紐やビニールテープなどを使って先端に固定した鈴を、小太鼓などの撥で打ちます。打つ部分には、フェルトや小さいタオル、ハンカチなどを巻いておきます。

### ③ 種類

鈴は、形や大きさに様々なものがあります。基本的な構造は、柄に鈴をつけた物ですが、付けられている鈴の大きさや材質、数などによって、音色も多種多様です。

### ④ 奏法の具体例

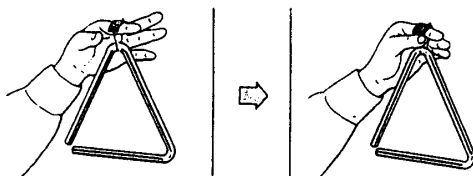
#### トレモロ奏



シェイクロールと呼ばれる奏法です。真っ直ぐに持った鈴を、手首を捻るようにして振ります。きめの細かいトレモロ奏をする場合には、この動作にさらに手首を支点にして楽器を左右に振る動作を加えます。

注：鈴は構える時、置く時などに音が出てしまい易い楽器なので、マットや厚手のタオル等を敷いた机などを用意しておくとい良いでしょう。

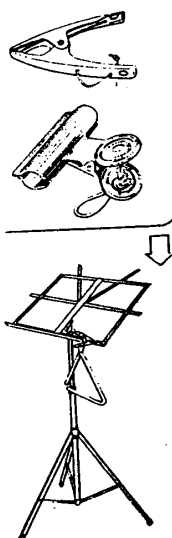
#### □トライアングル



#### ① 持ち方

左手の人差し指をホルダーに通してトライアングルを吊り下げ、親指と中指を使ってホルダーを両側から軽く挟み込むようにして持ちます。

トライアングルを吊り下げるホルダーは、紐の長さが大

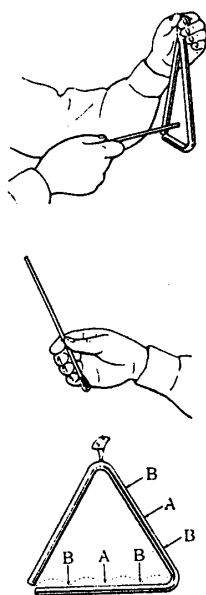


切です。紐が長すぎると指を通して支えても、楽器が回転してしまい不安定です。あまり短すぎると持ったときに指が楽器に触れてしまい、余韻の有る美しい響きが出ません。ホルダーに指を通して吊り下げて時に、指と楽器の間におおよそ1センチ位の隙間ができる長さが一番良いでしょう。

手を使わないこんな方法もあります!!

トライアングルを手で支えなくても演奏できるようにする為に、クリップに吊り紐をつけた専用のホルダーがあります。譜面台などのスタンドに取り付けて使用します。他の楽器を受け持ちながら打つ時などには、便利な道具です。

## ② 打ち方



左手で支えたトライアングルを顔の前で構え、右手で持ったビーターで打ちます。打つ際には、ビーターの重みを利用して打点に落とすようなつもりで打ち、素早く戻します。

トライアングルを打つ棒の事をビーターと言います。持ち方は、右手の親指と人差し指でビーターをつまむようにして持ちます。他の指はビーターに軽く添えるようにします。

同じビーターで打っても、打点をどの位置にするかによって微妙に音色が変わります。Aのような一辺のほぼ真中辺りでは、透明感のある音色になります。Aの両側に打点を移動させていくと、倍音を多く含むキラキラとした音になってゆき、Bで最大になります。

## ③ 種類

6 インチ (おおよそ15センチ)  
音の立ち上がりが良く、小さい音が連続して出てくるような曲に適しています。

8 インチ (おおよそ20センチ)  
トライアングルの音色を決める倍音を作りやすいので、効果的な使い方をするのに適しています。

10 インチ (おおよそ25センチ)  
大きい音のトレモロ奏などに適しています。

トライアングルは、その名前の通り、三角形をした金属製の楽器で、この他に特別な形が有るわけではありません。しかし、同じ形状でも太さ、大きさなどの種類は数多く、それぞれの音色が異なっています。

トライアングルは一辺をインチで表わし大きさを示します。

こんなトライアングルもあります!!

楽器の一辺にギザギザの山をつけた物で、ここをビーターで擦るだけでトレモロ奏をすることが出来ます。

#### ④ 奏法の実例

##### トレモロ奏

細かい連続したリズムを表現するトレモロ奏は、トライアングルのコーナーにビーターを構え、振るようにして演奏します。

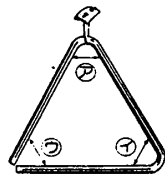
どのコーナーを使って演奏するかは、それぞれの特徴をとらえて選んでください。

##### ⑦を使ったトレモロ奏

ビーターを水平に振ります。響きの効率という点からはやや難がありますが、もっとも演奏しやすい位置なので、ここがよく使われます。

##### ①を使ったトレモロ奏

響きの点からは最も効果的な位置ですが、ビーターをそれぞれの辺に均等して斜めに振らなければならないので、奏法上の慣れが必要です。

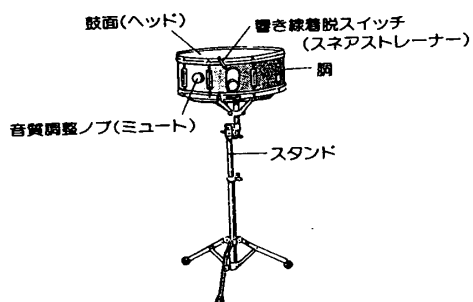


#### □ 小太鼓

##### ① 持ち方

撥の持ち方には2種類の方法がありますが、どちらの持ち方でも持つ位置はおおよそ同じです。

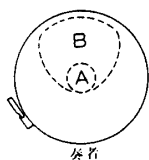
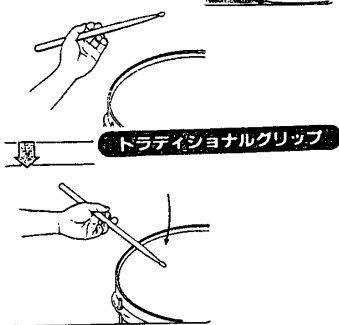
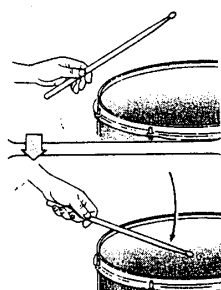
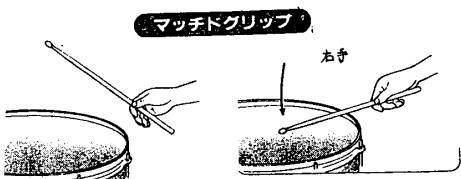
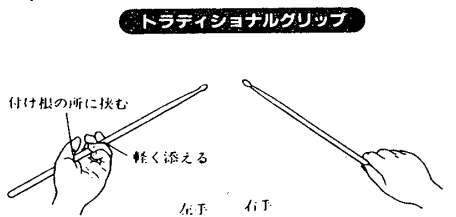
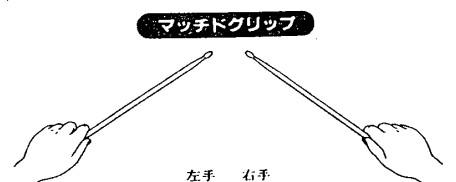
撥全体の長さを3等分して、持つ位置の目安にするとよいでしょう。



##### マッチドグリップ

マッチドグリップは両手とも同じ動作によって鼓面を打つので、左右の音を均等に出しやすい持ち方です。そのために、この持ち方は導入期の指導に好都合です。

カウベルやウッドブロックなど、他の楽器を同時に受け持って演奏するときなどにも便利な持ち方です。



## トラディショナルグリップ

トラディショナルグリップは打ちための動作が左手と右手とでは違います。

そのために、それぞれの音にニュアンスの相違がでできます。強弱の変化やニュアンスの違いを表現するときなどには、この持ち方が効果的です。

## ② 打ち方

### マッチドグリップ

両脇の力をぬいて肘を曲げながら腕を上げて自然に構えます。

右手は、手首を支点にしてスナップを効かせて打ちます。手首の力をぬくと、重みでばちが落ちるように打つのがコツです。

左手も、右手と同じように手首のスナップで打つようにします。

### トラディショナルグリップ

右手は構え方も打ち方もマッチドグリップと同じです。左手は、手首を回転させる動作によって鼓面を打ちます。

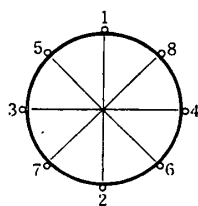
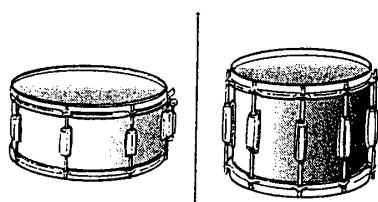
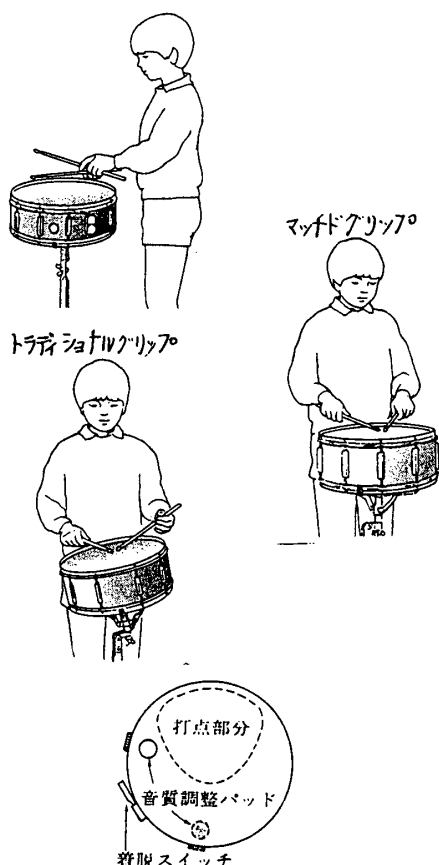
打つ場所によって音が変わります!!

鼓面を打つ場所は、求める音によって異なります。中心部Aでは音が大きく、外側によっていくにつれて小さくなります。

Aでは大きな音を出すことができますが、音色が悪いので一般的にはBの部分が多く用いて演奏します。

## ③ 構え方

小太鼓を打つための位置は、スタンドを調節して決めます。



## イ) 高さ

うでを曲げ、撥をもって構えたときに打ちやすい高さに鼓面がくるように調節します。(下腹部あたりに鼓面がくる位置がよいでしょう)

## ロ) 角度

小太鼓は、撥の持ち方によってセットの仕方が変わります。

マッチドグリップでは楽器を水平セットします。

トラディショナルグリップでは、奏者から見て右または右前方を低く傾斜させてセットします。

## ハ) 向き

響き線着脱スイッチを左手で操作できるように、向きをセットするのが一般的です。

このとき、打点部分に内蔵の音質パッドが入らないように向きを調節します。

## ④ 種類

小太鼓は、鼓面の大きさ、胴の深さなどに多くの種類があります。

一般的には鼓面の直系が14インチ(36センチくらい)の浅胴のものが多目的に使われています。

深胴のものは、マーチングなどの行進演奏用として多く使われています。

注意 小太鼓のスタンドには、立奏用と座奏用とがあります。

## ⑤ 各部

### イ) 鼓面

鼓面は、以前は、牛革などによって張られていましたが、最近ではほとんどがプラスチック製になりました。

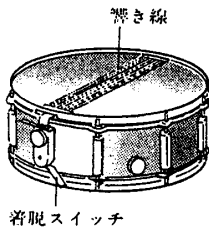
(鼓面は、左図に示す順に向かい合う位置のねじを少しずつ均等に締めていきます。

おおよそ張り込んだところで、同じように裏側の鼓面を張り、両面とも張り終わったら、響きのムラをなくす

ために微調整をします。

カンカンと張りのある音になるように調整しましょう。微調整が終わったところで響き線を取り付けます。

#### ロ) 響き線と着脱スイッチ



裏側の鼓面につけられたスネアと呼ばれる響き線によって、小太鼓独特の音色が作り出されます。スネアドラムと呼ばれる所以です。響き線は、その着脱スイッチを動かして、鼓面に密着させたり離脱させたりすることで使い分け、音色を変化させます。



#### ⑥ 奏法の具体例

##### ▶ ひとつ打ち (単打)

左右交互にひとつずつ打つことを基本にした奏法です。

##### ▶ ふたつ打ち (複打)

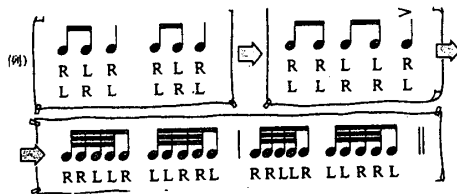
第一打をうった弾みを利用して、そのまま第二打を打つ奏法です。

第一打のあと、親指をゆるめて撥を跳ね上げ、そのまま再び手を握るような気持ちで第二打を打ちます。そして第二打のあと撥をすくい上げるようにしながら手首と一緒にその撥を跳ね上げます。



##### ▶ 五つ打ち

トレモロ奏法の代表的なものです。



#### ⑦ 保守保管

響き線は使用後、着脱スイッチを使ってゆるめておきましょう。

スイッチやねじの部分には、ときどき油をさしておきましょう。

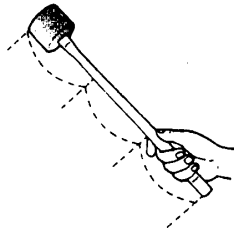
スタンドは、楽器の高さや角度を調節しやすいように、いつも手入れをしてサビが出ないようにしましょう。

鼓面にもものを置かないよう、格納するときは気をつけま

しょう。

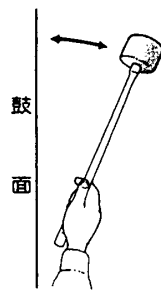
極端な湿気や乾燥，直射日光などは避けましょう。

## □大太鼓



### ① 持ち方

小太鼓のときと同じように，撥全体を3等分して持つ位置の目安にします。親指を撥の上に乗せ，残りの指で軽く握りこみます。

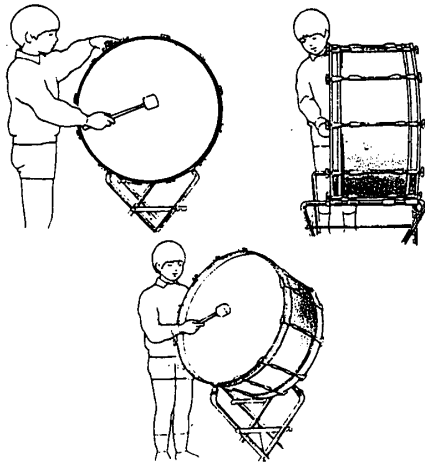


### ② 打ち方

小さな音や細かいリズムなどの演奏では手首のスナップで，大きな音の演奏では肘を支点にするようなつもりで打ちます。

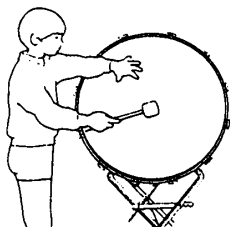
### ③ 構え方

右手を自然に上げて，撥の頭が鼓面の中心に届くように近づき，打点が見えるようにやや右よりに立ちます。



こんな構え方も有ります!!

楽器をスタンドに斜めにセットして打つ方法もあります。楽器が大きすぎる子供には，打ちやすい構え方です。



### 残響の止め方

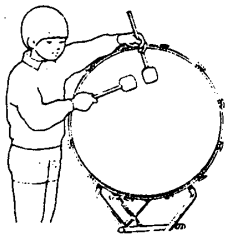
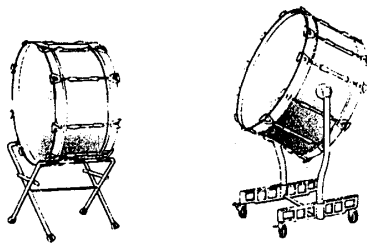
左手を使って鼓面をなで上げるように押えます。同時に撥を持った右手も使うと，一層残響を止める効果が大きくなります。

### ④ 種類

主にマーチング用とコンサート用とがあります。マーチング用は，小型軽量である事にも重点が置かれた設計になっています。コンサート用は，音色，音質に重点が置かれていますので，鼓面の径も胴の深さもマーチング用に比べ，

34, 36インチ (おおよそ86, 91センチ)  
音のまとめやすさ, 大太鼓特有の響きの作りやすさという点で, 使いやすい大きさです。

38, 40インチ (おおよそ96, 102センチ)  
更に重厚な低音を出すことができます。大きすぎて響きがまとまりにくいといった短所も出てきます。



ずっと大きくなっています。

小さいものは, 51センチぐらいの物から各種有ります。

スタンドには, 楽器本体を支えるだけの簡単な物と, 角度が自由に変えられ, さらに持ち運びに都合がいいようにキャスターがついたものが有ります。

#### ⑤ 各部

##### 鼓面

鼓面の大きさは, 楽器そのものの大きさを決めてしまいます。最近では, 牛革に代わってプラスチック製の鼓面が使われるようになってきました。

大太鼓の鼓面は, 両面とも同じように張ることが原則です。最後の微調整は二人がペアになって行います。

#### ⑥ 奏法の具体例

##### トレモロ奏

同質の撥を小太鼓のトラディショナルグリップと同様にもって打ちます。打つ場所は, 求める音によって工夫します。

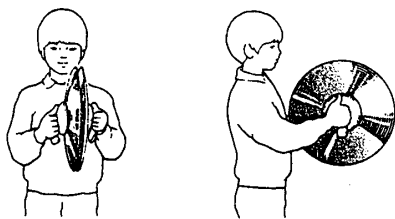
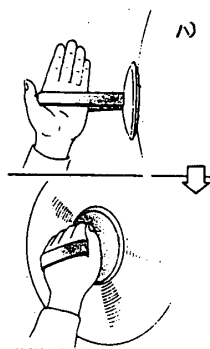
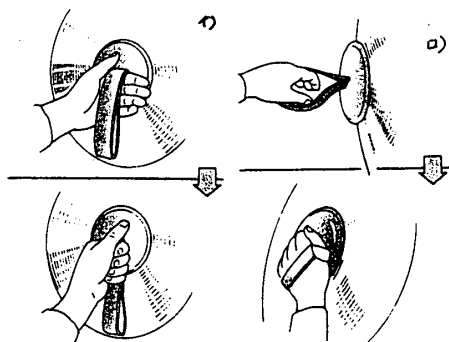
##### 一言

子供にとって, 大太鼓はとにかく大きな楽器です。鼓面の中心に撥を当てることも, 左手を使って残響を消すことも大変な作業になってしまう場合もあるでしょう。そのような時, 楽器を斜めにセットする方法は有効です。

#### ⑦ 保守・保管

使った後は鼓面や胴を綺麗に拭いておきましょう!!

## □シンバル



### ① 持ち方

シンバルの持ち方には、次の三種類があります。

イ) 手皮を親指と人差し指の間に挟み、人差し指から小指までの四指で手皮を握りこみます。親指でシンバルを安定させて角度を調節します。

ロ) 手皮の輪へ上から手を通したあと、親指と人差し指で手皮の根元を外側から握りこむようにして、シンバルを安定させます。

ハ) 手皮に人差し指から小指までの4指を通して握りこみます。親指は、人差し指との手皮をしっかりとさむようにしてシンバルを安定させます。

### ② 打ち方

楽器を腹の前に構え、右手のシンバルで打ち込み、左手のシンバルでそれを受けるようにして演奏します。右手は力まず自然に左手のシンバルへ落とすようなつもりで打ち合わせます。

注 シンバルを打ったときには、当たった瞬間に離すときの瞬発力が大切です。当たった瞬間に力をぬいて、ずらすように離します。

こんな打ち方もあります!!

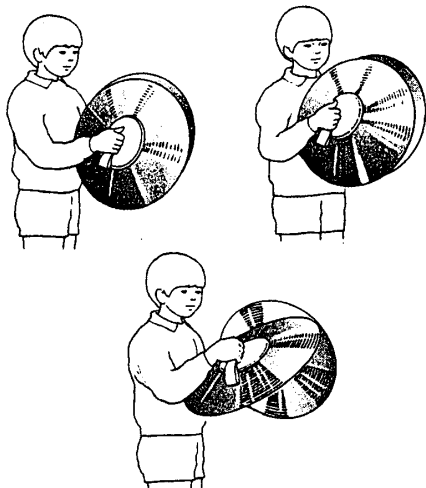
左手でシンバルをつるすようにして持ち、右手に撥を持って打ちます。

残響は、楽器を胸によせて止めます。



### 残響の止め方

シンバルの残響の止め方には、次の3種類があります。



- 腹にひきよせて残響を止めます。

打った音が短く、余韻を残さずに止めたいときに効果があります。

- 胸に引き寄せて残響をとめます。

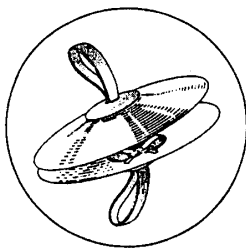
打った音が長く動作の余裕があるときに使われます。

- 腕に当てて残響を止めます。

余韻を残しながらやわらかく止めたいときに使われます。

### ③ 種類

シンバルには音の立ち上がりのよさを特徴とするクラッシュ系と、音の持続性を特徴とするライド系とがあります。

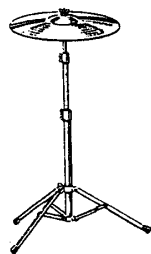
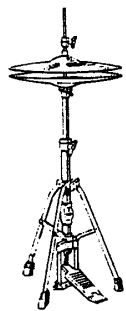


合わせシンバルはこの2種の異質のシンバルが組み合わされています。

ライド系のシンバルは、やや肉厚になっています。

合わせシンバルと呼ばれているものです。

利き腕（一般的には右手）にクラッシュ系、もう一方の手にライド系のものを持って打ち合わせます。



ハイハットシンバルと呼ばれるもので合わせシンバルの仲間です。

上にクラッシュ系、下にライド系のものをセットし、足元についたペダルを踏んで音を出します。

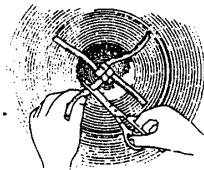
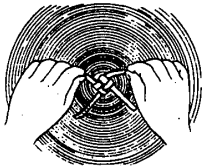
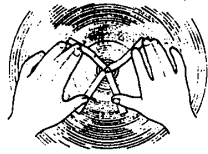
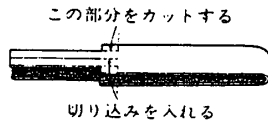
サスペンディッドシンバルと呼ばれるもので一枚のみで演奏します。一般には撥で打ちますが、求める音によってさまざまなものが使われます。

### ④ 各部

手皮はシンバルを支えるために重要です。手皮の長さや硬さなどによって支えが変わり、演奏の仕方にまで影響を及ぼしますから、手に合った調整をしておくことが大切です。

## 《手皮の調整の仕方》

手皮は一般的に長めに作られています。子供の手に合わせて切り詰める場合は、左記の様にします。



手皮をシンバルの穴に根元まで通し、裏返して先を四方に広げます。

広げた先を反対方向に折り返し、互いの輪の中へくぐらせます。

四つともくぐらせ終わったら、先を均等に引っ張って結び目を硬く締め付けます。

手皮がシンバルにしっかりと取り付けられたら、先を切り詰めておきます。

## パッド

パッドは、指の保護のために使われます。あまり大きすぎるとシンバルの響きを変えてしまいます。

## ⑤ 奏法の具体例

### イ) スタッカート奏

サスペンディッドシンバルを使って演奏します。右手で打ち、左手で響きを止めます。スタッカート奏には、響きを止めやすくするために、クラッシュ系で小さ目のシンバルを使います。

この奏法を応用して、8ビート等のロック系の基本リズムを表現することが出来ます。

### ロ) トレモロ奏

サスペンディッドシンバルを使って演奏します。トレモロ奏には、ライド系のシンバルを使うと効果的です。



最後に子供たちが歌を歌いながら、又は、CDなどを聞きながら、それぞれの楽器を使いリズムを打ち、音色の違いを感じ、楽しめたら素敵なことだと思います。

#### 参考文献

マール社「楽器」

教育芸術社「打楽器ガイドブック」

(岩瀬敏子)

#### Ⅲ. おわりに

保育は実践である、と言われる。しかし保育の実践は、単に演ずるということではない。保育の原理・本質を学び、保育の対象である子どもを理解し、その上で子ども一人一人の健全な成長・発達を促していく営みであり、ここに保育技能の専門性が求められる。

保育の学習の中で、本論で取り上げた「児童文学」「造形」「歌唱」「音楽的表現の遊びへの導入」「打楽器の奏法」などの保育技能に関する基礎を学び、実践力を修得していくことは、保育科の学生にとって大事なことである。それぞれの授業の展開の中で、学生一人一人が実践力をさらに高めていくことを望みたい。そのために、本論が学生にとって役に立つことを確信するとともに、今後も、教える側の教員と教わる側の学生が共に高め合って、より実践的な授業が展開されていくことを願うものである。

最後に、本論は教育・保育実習に携わる5人の教員が、それぞれ自分の専門領域から学生が実習時に指導実習をする際に参考となる視点でまとめた共同研究である。全体の統一に欠けるところは筆者の責任であることを申し添える。

(浅野房雄)